

新薬開発状況

当社が日本・米国・欧州・中国において承認取得を目指す対象疾患での開発状況を掲載

2024年7月現在

前回の決算発表時(2024年4月)からの変更箇所に下線

XTANDIおよび重点戦略製品(1/2)

一般名 開発コード (製品名)	モダリティ/ テクノロジー	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階*	自社**/導入	備考
エンザルタミド MDV3100 (XTANDI)	低分子	アンドロゲン受容体阻害剤	転移性去勢感受性前立腺がん	中国 承認(2024年6月)	Pfizer	
エンホルツマブ ペドチン ASG-22ME (PADCEV)	抗体-薬物複合体 (ADC)	ネクチン-4を標的とするADC	白金製剤およびPD-1/PD-L1阻害剤による 治療歴のある転移性尿路上皮がん	中国 申請(2023年3月)	自社 [Pfizerと共同開発]	
			治療歴のない転移性尿路上皮がん (一次治療、ペムプロリズマブ併用)	欧州 申請(2024年1月) 日本 申請(2024年1月) 中国 申請(2024年3月)		
			筋層浸潤性膀胱がん (ペムプロリズマブ併用)	P-III		
			その他の種類の固形がん	P-II		
			筋層非浸潤性膀胱がん	P-I		
ギルテリチニブ ASP2215 (XOSPATA)	低分子	FLT3阻害剤	急性骨髄性白血病 (寛解導入化学療法後の維持療法)	P-III	自社	
			急性骨髄性白血病 (造血幹細胞移植後の維持療法)	P-III		
			急性骨髄性白血病 (未治療、強力な化学療法適応)	P-III		
			急性骨髄性白血病 (未治療、強力な化学療法不適応)	P-I		
			小児における急性骨髄性白血病	P-III		

XTANDIおよび重点戦略製品(2/2)

一般名 開発コード (製品名)	モダリティ/ テクノロジー	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階*	自社**/導入	備考
ゾルベツキシマブ IMAB362 (VYLOY)	抗体	抗Claudin 18.2 モノクローナル抗体	胃腺がんおよび食道胃接合部腺がん (化学療法併用)	米国 申請(2024年5月) 欧州 申請(2023年7月) 中国 申請(2023年7月)	自社 (Ganymed)	
			胃腺がんおよび食道胃接合部腺がん (免疫チェックポイント阻害剤および化学療法 併用)	P-III		
			膵臓腺がん	P- II		
fezolinetant ESN364 (VEOZAH***)	低分子	NK3受容体拮抗剤	閉経に伴う血管運動神経症状	中国 P-III 日本 P-III	自社 (Ogeda)	
			補助内分泌療法中の乳がん患者における血管運 動神経症状	P-III		
avacincaptad pegol (IZERVAY)	PEG化RNAアプタマー	補体因子C5阻害	地固状萎縮を伴う加齢黄斑変性	欧州 申請(2023年8月)	自社 (Iveric Bio)	
			Stargardt病	P- II		

* 特に記載のない場合、グローバルで開発を実施。開発段階が地域ごとに異なる場合は、最も進んでいるものを記載。一部の地域のみで開発している品目については、その地域を記載。

** 共同研究により創出された化合物を含む。

*** 米国外ではVEOZAの製品名で承認を取得。

前回の決算発表時(2024年4月)からの変更点:

エンザルタミド: 転移性ホルモン感受性前立腺がんを適応症として2024年6月に中国で承認を取得した。2024年4月に欧州で承認を取得したサルベージ放射線療法が適応とならない生化学的再発のリスクが高い非転移性ホルモン感受性前立腺がんに関する記載を削除した。

ゾルベツキシマブ: 2024年3月に日本で承認を取得したCLDN18.2陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌に関する記載を削除した。胃腺がんおよび食道胃接合部腺がん(化学療法併用)を適応症として2024年5月に米国で再申請した。胃腺がんおよび食道胃接合部腺がん(免疫チェックポイント阻害剤および化学療法併用)を対象としてPhase 3に入った。

Focus Area アプローチ (1/2)

Primary Focus	一般名 開発コード (製品名)	モダリティ/ テクノロジー	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階*	自社**/導入	備考
がん免疫	ASP1570	低分子	DGKζ阻害剤	がん	P- I	自社	
	ASP2138	抗体	抗Claudin 18.2/抗CD3 二重特異性抗体	胃腺がんおよび食道胃接合部腺がん、 膵臓腺がん	P- I	Xencor [共同研究により創出]	
	ASP1002	抗体	抗Claudin 4/抗CD137 二重特異性抗体	がん	P- I	自社	
	ASP1012	腫瘍溶解性ウイルス	レプチン-IL-2遺伝子を搭載した 腫瘍溶解性ウイルス	がん	P- I	KaliVir	
	ASP2802	細胞医療	CD20標的 自家convertible CAR-T	B細胞リンパ腫	P- I	自社 (Xyphos Biosciences)	
標的タンパク 質分解誘導	ASP3082	低分子	KRAS G12D分解	がん	P- I	自社	
	ASP4396	低分子	KRAS G12D分解	がん	P- I	自社	

Focus Area アプローチ (2/2)

Primary Focus	一般名 開発コード (製品名)	モダリティ/ テクノロジー	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階*	自社**/導入	備考
遺伝子治療	resamirigene bilparvovec AT132	遺伝子治療 (アデノ随伴ウイルスを用いた遺伝子治療)	MTM1遺伝子置換による ミオチューブラリン発現亢進	X連鎖性ミオチューブラーミオパチー	P- II	自社 (Audentes Therapeutics)	
	zocaglusagene nuzaparvovec AT845	遺伝子治療 (アデノ随伴ウイルスを用いた遺伝子治療)	GAA遺伝子置換による GAA酵素発現亢進	ポンベ病	P- I	自社 (Audentes Therapeutics)	
	ASP2016	遺伝子治療 (アデノ随伴ウイルスを用いた遺伝子治療)	FXN遺伝子置換による フラタキシン発現亢進	フリードライヒ運動失調症に伴う心筋症	P- I	自社 (Audentes Therapeutics)	
再生と 視力の維持・ 回復	ASP7317	細胞医療	網膜色素上皮細胞	地固状萎縮を伴う加齢黄斑変性	P- I	自社 (Ocata Therapeutics)	
免疫 ホメオスタシス ***	ASP5502	低分子	STING阻害剤	原発性シェーグレン症候群	P- I	自社	

* 特に記載のない場合、グローバルで開発を実施。開発段階が地域ごとに異なる場合は、最も進んでいるものを記載。一部の地域のみで開発している品目については、その地域を記載。

** 共同研究により創出された化合物を含む。

*** Primary Focus候補。

前回の決算発表時(2024年4月)からの変更点:

ASP1002:作用機序を記載した。

ASP5502:Phase 1に入った。

その他

一般名 開発コード (製品名)	モダリティ/ テクノロジー	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階*	自社**/導入	備考
ミラベグロン YM178	低分子	β ₃ 受容体作動薬	小児における神経因性排尿筋過活動 (3歳以上18歳未満)	欧州 申請	自社	
			小児における神経因性排尿筋過活動 (6カ月以上3歳未満)	欧州 P-III		
ペフィシチニブ ASP015K	低分子	JAK阻害剤	関節リウマチ	中国 申請(2022年8月)	自社	
ロキサデュスタット ASP1517/FG-4592	低分子	HIF-PH阻害剤	小児における慢性腎臓病に伴う貧血	欧州 P-III	FibroGen	アステラスの権利範囲 は、日本、欧州、独立 国家共同体(CIS)、中 東、南アフリカ等
アピラテロンデカン酸エステル PRL-02/ASP5541	低分子	CYP17 リアーゼ阻害剤	前立腺がん	P- I	自社 (Propella Therapeutics)	

* 特に記載のない場合、グローバルで開発を実施。開発段階が地域ごとに異なる場合は、最も進んでいるものを記載。一部の地域のみで開発している品目については、その地域を記載。

** 共同研究により創出された化合物を含む。

Rx+プログラム開発状況

2024年7月現在

カテゴリー	プログラム	ビジネスコンセプト	状況*	パートナー	備考
デジタルヘルス その他サービス	BlueStar	糖尿病を対象としたデジタルセラピューティクス	検証的治験(日本)	Welldoc ロシュDCジャパン	
	Z1608	心不全をリモートでモニタリングするデジタルセラピューティクス	製品開発中	Welldoc Eko	
医薬品/医療機器 コンビネーション	pudexacianinium chloride ASP5354	腹部又は骨盤内の低侵襲及び開腹手術において術中に尿管を可視化する手法	P-III	Stryker	

* 開発段階が地域ごとに異なる場合は、最も進んでいるものを記載。